

PTA 委員会資料（中・高連携推進事業）

講話「子どもたちの裏垢～SNS とどう付き合うか、どう指導するのか～」

講師 岡崎女子大学講師 花田経子 氏

<今後 子どもたちを取り巻く環境>

- ・生まれたときから「スマホ」があり、AI スピーカーを使いこなす世代
- ・情報洪水（テックトック、ツイッター、フェイスブック、インスタグラム、ライン 等）
- ・アカウントは、複数あって当たり前：裏表の使い分け失敗によるトラブル
- ・パスワードの乗っ取りごっこ：重要性を認識しないで、他人へ教える

<隠語の闊歩> 垢＝アカウントの略

- ・JK（女子高生）、JC（女子中学生）、LJK（ラスト JK＝高3？）
- ・「本垢」＝他人に見られてもよい内容
- ・「裏垢」＝限定の人に公開…本人自身がフォロワーに“なりすまし”のケースも。
- ・「病垢」＝SOS なので、鍵をかけないことが多い。
- ・「エロ垢」＝性的問題行動へ
- ・「売り子垢」＝振り込め詐欺？犯罪につながる

*もぐらたたき状態で、次々に、問題が発生し、情報教育や生徒指導が追い付かない。

例)「知らない人」には合わない ⇒ SNS でつながれば、「知っている人」感覚

⇒ トラブル・問題・事件に巻き込まれる

<子どもが抱えた問題への対応>

- ① 知る・調べる（正確な状況把握）
- ② 他人事、「他人のせい」にしない…問題のすりかえ
- ③ 受容して、支える（根本的な解決には時間がかかる）

*家庭で保護者が、子どもの SNS 利用状況を適切に把握し、学校生活の教師の見取りと照らし合わせ、問題の未然防止、早期発見に努める。（学校・家庭の信頼関係の欠如で、問題が深刻化）

⇒ 問題が起きていたら

- ④ 被害者の気持ちを最優先 NG：感情的になって責める「なんで、こんなことしたの？」
- ⑤ 証拠を保持する（削除しない） 時系列で記録する
- ⑥ どの専門機関につなぐか考える

例) **学校**、児童相談所、警察、インターネットホットラインセンター 等

~~~~~  
\*軽い気持ちで行った SNS への投稿、「リベンジポルノ」の問題など、自撮り画像や盗撮画像の拡散で、ネット上に永久に残る「傷跡」となってしまう危険から、子どもを守る義務が、保護者・指導者にはある。

☆学校の情報モラル教育推進：情報教育アドバイザーや NTT 等を講師とした授業

☆「道徳の教科化」による道徳教育の充実＝良心・判断力を育てる